

「Global Studies Program 2026」

今年度のGlobal Studies Program（以下、GSP）は、坂出高校・高松高校と合同で開催し、本校からは希望者11名が参加しました。このプログラムは、「人生を変える5日間の国内留学」をキャッチフレーズに、日本国内の大学に留学している外国人大学生がグループリーダーとなって、自己理解や異文化理解をテーマに、グループディスカッションやプレゼンテーションをすべて英語で行います。

初日に、会場となった坂出高校の松濤会館に集まった西高生はやや緊張した面持ちでしたが、アイスブレイクで体を動かしたり、ゲームをしたりする中で、少しずつ気持ちがほぐれたようでした。また、このプログラム全体をサポートしてくださるファシリテーターが何度も「Don't be shy!」と声をかけてくださるので、アクティビティを重ねるごとに笑顔と発言が増えていきました。



2日目の朝、プログラムが始まるまでの待ち時間、各グループでは、にこやかに会話が交わされていました。そうしたリラックスした雰囲気の中、最初のアイスブレイクで、グループリーダーがラップを披露し、参加者全員が手拍子でリズムをとり、一体感が生まれました。その後、各グループに分かれ、グループリーダーのvalues（大切にしていること）について説明を聞きました。生徒たちはただ説明を聞くだけでなく、グループリーダーに積極的に質問することで説明の内容をより深めていきます。最初に安心して話せる雰囲気、質問できる関係性をつくっておくことがこのアクティビティの内容を深める仕掛けになっていました。



3日目のテーマは「自己表現」。自己表現にはどのような方法があるのか、グループで話し合った後、自分の個性を表したオリジナルTシャツのデザインを考え、発表しました。自分の好きなものを盛り込むことで自然とポジティブに説明することができました。その後、安心して自分の気持ちや考えを話せる場所やその理由について話し合いました。

